

札幌農学校とクラーク先生

文学博士 大島 正 健君

今回、〈夏季特別企画〉として戦前の経済倶楽部講演会から、東京で昭和7年5月10日に行われた大島正健氏の講演を掲載します。大島正健氏は安政6年（1859年）に生まれ、昭和13年（1938年）に亡くなった教育家であり宗教家です。札幌農学校の1期生16名のひとりですが、初代教頭として米国から赴任したウィリアム・クラーク氏から直接薫陶を受けました。同氏はその後、現在の山梨県立甲府第一高等学校の前身である甲府中学の校長になりましたが、当時在学していた石橋湛山氏がその教えに触れたことは有名です。甲府第一高等学校には現在も石橋湛山氏の筆になる“Boys be ambitious”の碑が残っています。

（用語は一部現在の表記に変えています）

今晩は御招待によりまして参りましたが、以前に野沢さんよりそのことを申し入れられました時に、私の如き老人が、そのような席へ出掛けて行くべきではない、時代没交渉な老人の話からと辞退を致しましたが、何の話かといふこと、私の先師のクラーク先生の話を聞きたいとのことでありました。それならば辞する訳に行かない。自分の先師のことを世に紹介するということは、年を取っても一つの責任である。それならばやりました。その代り雑談的で、講演という次第ではなく、記憶に任せてただお話を致します。どうやってよいか支度などは何もしておりませぬ。何もしておりませぬかわり、見聞したことのまます、こういうこともある、あ、

いうこともあると、前後錯雑してお話を致しますから、どうぞそのおつもりでお聞き下さるよう、あらかじめお断りしておきます。

クラーク博士のお話をするについては、黒田清隆さんとの関係を先ずお話ししなければならぬのです。黒田さんはただ武弁一遍の人だと思えますと、アメリカへ行かれました、余程違った観察をして帰られたものと見え、欧化主義とか米化主義というように、その時分はまだ開けないうち日本を改めなければならぬ、新空気を作るのが一番だという考えで帰って来られたのです。そこでホレース・ケブロンという海軍出の人を顧問にして、明治二年に北海道開拓使というものが置かれて、その時は次官であられた